

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	未来Support Nextdoor		
○保護者評価実施期間	R7年 11月 1日		～ R7年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	R7年 11月 1日		～ R7年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5領域、SSTを軸にした実践的なカリキュラム。</li> <li>・子供たちを主体とした活動プログラム。</li> <li>・イベントや行事の充実。</li> <li>・集団活動（個から集団への移行支援）</li> </ul>	<p>目的や目標、ルール、役割を明確に示す。目で見てわかる支援ロールプレイや場面想定をおこない人ごとにならない支援を心がけている。子供たちを主体に行うことでお互いの成長や仲間意識が高まりやすくなる。大人の介入のタイミングや指導に関しては慎重におこなう。</p> <p>個別活動ではアセスメントに基づいた支援を行うことを意識している。</p>	<p>支援の質をより上げていくために職員一人一人のスキルアップを目指すための体制づくり。子供たちの活動の場を広げる取り組み。（地域資源を活かしたり社会活動の機会を設けるなど）</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟な対応と個別対応。</li> <li>・研修会議等の定期開催。</li> </ul>	<p>子供一人ひとりの特性や状況に応じて方法を変えたり調整を行うようにしている。具体例（ヒアリング・面談・視覚支援・選択肢を渡す・役割付与で成功体験・感情調整の個別指導等）</p> <p>家庭環境によっては綿密な状況把握や緊急時の迅速な対応が必要なので会議等随時行っている。</p>	<p>時代合ったニーズや課題に対してのより具体的かつ実践的な取り組みをおこなう。社内研修や勉強会を開催したり外部研修を受けることでよりサービスの質の向上を目指すことができる。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちが自分らしく安心して過ごせる環境づくり。</li> <li>・子供たちとの信頼関係の構築。</li> </ul>	<p>一人ひとりの特性や個性に合わせた関わり方。困りごとや悩みに対して親身かつ適切にアプローチする。個別面談の実施。イベント、行事の開催。</p>	<p>子どもたちの心の声や小さなSOSに気付けるよう環境整備や仕組みづくりを考え実践していきたい。学校や医療との連携がしやすい環境づくり。</p>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童館、児童クラブとの交流が持っていない。	アPOINTは取れて話をしても前向きな返事等がないので課題要因を追求しにくい。	事業者同士の交流機会やお互いの取り組みや理念を周知できる機会を設ける。地域への周知信頼性を高める。
2	機関によっては思うような連携や情報共有ができないことがある。	立場や責任の違いによっての壁がある。	連携の目的の明確化。所管が違うこともあるので連携の必要性や子供たちと与える影響を伝える。
3	・人材育成	できる仕事の範囲にばらつきがある。知識やスキルも大きく違うため育成に時間がかかる。	研修やガイドラインから学んだこと実践する環境と仕組みづくり。